

氏名	酒 井 泰 彦
学 位 の 種 類	博 士 (医 学)
学 位 記 番 号	第3479号
学位授与年月日	平成10年 3 月31日
学位授与の要件	学位規則第 4 号第 1 項該当者
学 位 論 文 名	Homeless Patients with Hepatocellular Carcinoma in Osaka City, Japan (大阪市内特定地区のホームレスの肝癌患者における臨床-疫学的検討)
論文審査委員	主 査 教 授 黒 木 哲 夫 副主査 教 授 大 谷 周 造 副主査 教 授 木 下 博 明

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】1993年の日本における肝癌による死亡者数は約2万8千人にのぼり、1975年の3倍に増加している。大阪市のそれは胃癌、肺癌とともに1994年に全国で1位となっている。大阪市A地区は国内で最多の約2万1千人のホームレスを擁する地区であり、肺結核罹患率が他地域の6倍と衛生的な環境は劣悪である。同地区でのHCCの年間発生率は本邦平均の1.5倍にのぼっており、これらの患者の臨床疫学的検討を行うことは予防医学の面で重要であると考えた。

【対象と方法】最近6年間に同地区S病院に入院した30名の肝細胞癌(HCC)患者と15名の肝硬変(LC)患者を対象とした。血清生化学検査、B型、C型の肝炎ウイルスマーカー、肝組織検査、医療ソーシャルワーカーによる同地区滞在歴、飲酒歴、輸血歴、刺青歴、の聴取、Competitive reverse transcription polymerase chain reactionによるHCVRNA定量とG型肝炎ウイルス(GBV-C/HGV)に関する検討を行った。

【結果】HCC患者は同地区長期滞在歴(平均25年)があり、低栄養の傾向を示し、B型、C型肝炎ウイルスの感染要因も高率に認めた。HCC患者の肝障害の要因として主要なものはHCV(77%)、アルコール多飲(73%)、両者重複(50%)であった。HCV RNA定量では、HCC群 $10^{6.8 \pm 0.9}$ copies/50ml、LC群 $10^{6.5 \pm 0.7}$ copies/50mlと有意($P < 0.02$)にHCC群で低かった。なおHCC及びLC患者の20%に(GBV-C/HGV)RNAを認めたが全例HCVまたはHBVとの重複感染であった。

【考察】HCV RNA量はLC群よりもHCC群でむしろ少なかった。このことから同地区のHCC発生にはHCV RNA量は関与していない事が推察される。HCC群、LC群とも肝障害の病因は全例HCV、HBV、あるいはアルコール多飲の複合または単独であり患者の低栄養状態がその治療を困難にしていることから、肝炎ウイルスの感染予防(特にHCV感染)ならびにアルコール制限を含む衛生環境の改善が同地区のHCC発生、治療に対して有効な手段であると推察される。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

肝細胞癌は種々の病因による慢性肝疾患患者から発生するが、なかでもB型及びC型肝炎ウイルスに起因する慢性肝疾患患者から高率に発生する。本邦でもいわゆるホームレスが非衛生的な環境で暮らしており、それらウイルスの暴露を受けやすく肝細胞癌発生のハイリスクグループの1つであることが予想されるが、今まで詳細な検討は行われていない。

本論文は本邦でも良く知られたホームレス滞在地域である大阪市A地区の社会医療センター附属病院に

最近6年間に入院した30名の肝細胞癌（HCC）患者と15名の肝硬変（LC）患者を対象に、ホームレスの肝細胞癌患者の特徴を明らかにすべく血清生化学検査、B型、C型の肝炎ウイルスマーカー、肝組織検査、医療ソーシャルワーカーによる同地区滞在歴、飲酒歴、輸血歴、刺青歴の聴取、Competitive reverse transcription polymerase chain reactionによるHCV RNA定量とG型肝炎ウイルス（GBV-C/HGV）に関する検討を行った。結果としてHCC患者は同地区長期滞在歴（平均25年）があり、低栄養の傾向を示し、B型およびC型肝炎ウイルスの感染も高率に認めた。HCC患者の肝障害の要因として主要なものはHCV(77%)、アルコール多飲(73%)、両者重複(50%)であった。HCV RNA定量では、HCC群 $10^{5.8-6.9}$ copies/50 μ l、LC群 $10^{6.5-7.7}$ copies/50 μ lと有意($P<0.02$)にHCC群で低かった。またHCCおよびLC患者の20%に(GBV-C/HGV)RNAを認めたが、全例HCVまたはHBVとの重複感染であった。

本研究により同地区対象患者の肝障害の要因は主にHCV、アルコール多飲、両者重複であることが明らかになった。さらにHCV RNA量はLC群よりもHCC群でむしろ少ないことが示された。この成績は今まで一般的な地域のHCC群とLC群の比較で示された結果と異なっていた。また肝炎ウイルスの感染予防（特にHCV感染）ならびにアルコール制限を含む衛生環境の改善が同地区のHCC発生、治療に対して有効な手段であると推察された。

本論文は今まで詳細な報告のなかったホームレスにおける肝細胞癌患者の病態解析に臨床的および公衆衛生学的に新たな知見を加えたものである。

よって著者は博士（医学）の学位を授与されるに値するものと判定された。